令和元年（平成３１年）度
事　業　報　告　書

社会福祉法人　平群町社会福祉協議会

（自）平成３１年４月　１日
（至）令和 ２ 年３月３１日

令和元年（平成３１年）度事業報告

▫ 概 要

本格的な少子高齢社会を迎え、今後、急激な高齢人口の増加や現役世代の減少が見込まれています。また、社会的孤立や貧困の問題などが深刻化するとともに、全国各地で自然災害が頻発するなど、地域における福祉課題・生活課題は複合化・複雑化しています。

こうしたなか、地域住民自らが主体的に関わり支え合う地域共生社会の実現に向けて、地域福祉の推進に取り組んできた社会福祉協議会には、その中心的な担い手としての役割を果たすことが求められています。本会は、『平群町地域福祉計画』・『平群町地域福祉活動計画』の基本理念である、「一人ひとりの　くらしと　生き方を　尊重しあい　輝きあうまち　へぐり」の実現に向けて、事業計画に基づいて各種事業を実施しました。

法人運営においては、公益性・非営利性を持った社会福祉法人として、事業運営の透明性の確保や、経営組織のガバナンスの強化、財務規律の強化に努めました。以前より導入を進めてきた会計情報システムによる事業ごとの財務管理については、計画通り実施しました。今後も、業務管理体制の強化を行い、適正な事業の執行に努めます。

地域福祉活動の推進に当たっては、住民主体の地域福祉活動を推進するなか、子どもを中心に誰もが集える場となるように開催された『地域食堂（こども食堂）』の運営支援を行いました。多くの住民の参加があり、この様な居場所が町内各所に拡がるよう、各地域への情報提供や運営の相談などを実施し継続して側面的な支援を行っていきます。

ボランティアセンター事業については、活動者の支援や次世代の地域福祉の担い手となる人材の発掘と育成につなげるため、各種講座の開催や相談などを実施しました。各小・中学校と協議・連携を行い、既存の福祉教育活動の見直しや福祉出前講座（令和２年度より実施）事業の開始など、学齢期における福祉教育の推進を行いました。

福祉サービスの利用援助については、生活困窮者等への生活支援や総合的な相談支援機能の向上を図るために、『生活福祉資金貸付事業』・『フードレスキュー事業』・『日常生活自立支援事業』などを実施し、権利擁護体制の構築に努めるとともに経済的に自立するなど在宅で安定した生活を過ごせるように支援しました。

老人福祉センター かしのき荘・ふれあい交流センターの指定管理業務については、高齢者や地域住民の介護予防・健康増進の拠点としての機能の充実を図るため、介護予防・認知症予防の教室やひとり暮らし高齢者などの支援・交流などの事業を開催しました。

在宅福祉サービスにおいては、利用者の自立支援と要介護状態の重度化防止を図るとともに、利用者が安心して在宅生活を継続できるように、利用者視点で高齢者などの生活課題の把握に努め、質の高いサービスの提供に努めました。今年度は、通所介護事業係の各種サービスの利用について、定員数の拡大や祝祭日の開催を行い、多くの利用者にサービスを提供することができました。

地域包括支援センターにおいては、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの深化・推進のため、各種相談や支援活動を実施しました。医療・介護・福祉などの専門機関や地域住民、自治会、福祉関係者などとの連携の強化に努め、地域ケア会議の充実や認知症の方とその家族が地域で安心して生活できる支援体制の整備などに努めました。また、地域における住民主体の介護予防活動の運営支援や各種講座を開催し、地域住民を包括的・継続的に支援を行いました。

総 務 地 域 福 祉 係

【　全体評価　】

各種事業については、総務分野・地域福祉分野共に概ね事業計画通りに実施することができた。

小地域ネットワークやボランティア活動など、住民主体の地域福祉活動を推進するなか、令和元年度は地域食堂（こども食堂）の立ち上げ、運営の支援を行った。今後についても、地域住民と共に様々な活動に取り組み、関係機関との協働や連携を図りつつ、地域福祉を推進していきたい。

要援護者・生活困窮者への支援などの取り組みについても、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業、各種相談事業を通して相談者や利用者に寄り添い、行政と連携を行いより良い支援が行えるように努めた。

共同募金活動については、昨年同様共同募金委員会を中心に積極的な募金活動が展開され、募金実績を基に様々な地域福祉活動へ還元することができた。

<table>
<tr><th>事　業　名</th><th>実施日時等</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">理事会・評議員会・監査</td><td>理事会
5/29,6/21,3/24
評議員会
6/21,3/31
監査
5/22</td><td>審議事項
〇平成30年度事業報告並びに収支決算について
〇次期役員（理事・監事）の候補者の推薦について
〇定時評議員会の招集について
〇会長・副会長・常務理事の選任について
〇令和２年度事業計画並びに収支予算について
〇理事候補者の推薦について
〇次期役員（理事・監事）の選任について
〇その他、業務執行状況報告　など</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
適正な事業運営を図るため、理事会・評議員会及び監査を実施した。
組織運営および各種事業についての協議を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">経理・会計・労務管理
契約関係</td><td>年間</td><td>社会福祉法人会計基準に沿った会計処理を行い、雇用・人事・労務管理体制の整備・充実を図った。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
各種法令や規定を順守し、組織運営の基盤整備に努めた。社会福祉法人会計基準に基づき適正な会計処理に努めた。</td></tr>
<tr><td>社協会費</td><td>年間</td><td>一般会員一口1,000円、特別会員一口5,000円で社協会員を募った。
〇会員数　　286人（特別会員0件）
〇会費合計　392,000円</td></tr>
</table>

	【　事業総括　】 今後もより一層地域活動や社協だより、ホームページなどを通じて社協組織や会費制度を身近に感じてもらい、理解と協力を得るために職員一同努力をしていきたい。	
情報公開	年間	希望者に文書を開示し情報を公開することにより、事業の理解と信頼を深め、公正で開かれた住民本位の社協運営に努めた。
	【　事業総括　】 速やかに開示できるよう、今後も適正な文書整理・管理に努め、地域住民の信頼に応え得るよう努力していく。	
生活福祉資金貸付事業 フードレスキュー事業	随時	低所得者や障がい者、離職者などに対し、生活についての相談に応じるとともに、資金の貸し付けを行い、当事者やその世帯の自立生活に向けた支援を行った。
	【　事業総括　】 日常生活上の必要な福祉費（冷暖房器具の購入）及び高校進学時における教育支援資金の相談に応じ、貸付につなぐことができた。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による緊急小口資金特例貸付については、迅速に手続きを行った。 ○生活福祉資金貸付事業 相談件数 36件 貸付件数 7件 福祉資金（福祉費2件、緊急小口資金3件）、教育支援資金1件、緊急小口資金特例貸付1件 ○フードレスキュー（緊急食料支援）事業 実施件数 3件	
日常生活自立支援事業	年間 (月～金)	判断能力が十分でない人が福祉サービスを利用する際に自己決定をできる限り尊重し、その意思の実現を援助した。 利用者数 5名　　延べ利用回数 103回
	【　事業総括　】 生活困窮者自立相談支援機関などからの相談に応じ、利用希望者と面談を行った上で支援計画を立て利用につながった。 契約後、定期的に生活支援員や職員が訪問し、郵便物の確認・日常的金銭管理などの支援を行い、話し相手として利用者の心配ごとを解消することにもつながった。	
日本赤十字社平群町	随時	日本赤十字社の平群町分区として、奈良県支部や日赤奉仕団とも連携・協力しながら様々な活動を行った。 ５月の赤十字運動月間にあわせ、活動資金（社資）募集を行った。 ○社資募集実績：自治会・個人　1,223,354円 ：法人　313,000円

日赤奉仕団 分区活動	【事業総括】 赤十字の活動を支える活動資金（社資）の募集活動においては、自治会はじめ法人篤志家のご理解のもとに多くのご協力をいただいた。 台風などによる災害も相次ぎ、義援金協力についての啓発に取り組んだ。 また、10月には、新たな災害救援車の更新配備を受けた。 健康生活や災害時に備えた各種講習会などの普及活動についても奈良県支部と連携して実施し、町内に取り組みが広がっている。	
平群町共同募金委員会 （共同募金活動）	10月～12月	平群町内で福祉事業を公募し、目標計画・助成額を決定した。運動実施期間中に、戸別募金・街頭募金・篤志家募金・募金箱設置・イベント募金等を行い、目標金額の達成を目指した。 ○目標金額　1,899,000円　公募事業数　12件 ○募金総額　2,266,839円
	【　事業総括　】 寄付者に、「自分の町をよくする募金」として町内の駅前・店頭・町主催のイベント会場において積極的に募金運動を展開した。 ご寄付頂いた募金の使途について明記した「ありがとうメッセージ」を全戸配布し、助成を受けた団体から寄付者へ感謝の気持ちを届けることができた。 今年度も目標額を達成し、申請団体へ要望額どおり助成金の配分を行うことができた。 今後も平群町において、福祉教育・ボランティア活動推進・子育て支援事業など、様々な活動に共同募金配分金を活用してもらえるよう、ホームページおよび町内各所において助成に関する情報を掲示し多様な地域福祉活動を財源面から支援する役割を果たせるよう努めていく。	
善意銀行	年間	地域住民の善意による金品の預託を受け、効果的に地 域に還元することにより地域の社会福祉増進に努め た。 寄付件数　10件　120,000円
	【　事業総括　】 住民の皆様より提供された金銭・物品などについて、適正な管理を行った。 ご寄付いただいた方の思いや福祉向上への期待に応えることができるよう、地域における寄付の窓口として制度の周知にも努めていく。	
団体事務局	年間	民生児童委員協議会・身体障害者福祉会・日赤奉仕団・ボランティア連絡協議会・更生保護女性会・小地域ネットワーク連絡協議会などの事務局として活動運営に便宜を図り、連携を強めることで共に地域福祉の向上に努めた。
	【　事業総括　】 事務局業務を通じて団体活動の支援を行い、地域福祉活動の推進に協働して取り組むことができた。今後も、それぞれの団体の活動と社協活動との連携を図るなど、継続的に支援を行う。	

福祉有償運送事業	年間	介護保険制度の要介護・要支援（事業対象者）認定を受けた方および障害者・療育・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方を対象に、医療機関や福祉・公共施設、日常の買い物先などへの移動支援を行う。 延べ利用件数　2,286件
	【　事業総括　】 公共交通機関の利用が困難な方で、一定の条件をお持ちの方に有効な移動手段となるよう、医療機関・公共施設・買い物などの利用の際の移動支援を行い、日常生活の維持および社会参加の促進ができるよう努めた。 今後も、利用者のニーズに応じるため、事業内容の充実や協力者の確保などに努める。	
学校ボランティア連絡会	随時	子ども達がボランティアを身近に感じ、心豊かに成長できるよう、学童期からの福祉教育の推進の一環として、各小学校での手話教室の開催や車いす体験を行った。各種情報提供や、講師派遣の連絡調整などの協力を行った。
	【　事業総括　】 町内の小中学校に対しボランティア協力校助成金交付を行い、福祉教育やボランティア精神の普及といった面においての情報提供や協力に努めた。 令和２年度より実施するため、各種福祉教育の出前講座（出張ふくし・にこにこ講座）について事業化し、各小中学校・子ども園への案内を行った。 今年度は、平群小学校より、車いす体験、障がい者スポーツ体験を行いたいとの相談を受け、車いす体験は当会職員にて対応、障がい者スポーツ体験については対応できる機関の情報提供を行い開催することはできた。	
福祉機器貸し出し	年間	一時的に福祉機器が必要となった方に対し、一定期間無料で車椅子などの貸出を行った。 延べ貸出件数　49件
	【　事業総括　】 貸出頻度は昨年度とほぼ同数で、短期の旅行や結婚式の出席など個々の状況に応じた柔軟な対応を心掛けた。 また、ボランティアの方々のメンテナンスのご協力もいただきながら、貸し出し体制の充実に努めた。	
	年間	ボランティア保険加入促進・助成金などについての各種情報提供を行い、ボランティア活動者や関心を持つ地域住民へ向けて、ボランティア講座を開催した。

<table>
<tr><td>ボランティアセンター</td><td colspan="2">【　事業総括　】
住民より、ボランティア活動を行いたいとの相談や、活動保険に関する相談を受けた。また、現在活動中の団体については、活動者の高齢化が進み、新たなメンバーが増えないとの相談を受け、団体の活動についてなどを社協だよりで周知を行った。
今後も相談体制などボランティアセンター機能の充実を図り、町内においてボランティア活動推進の拠点となれるよう目指していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ボランティアスクール</td><td>①7/24　②7/25
③7/27　④7/30</td><td>小学生高学年と中学生を対象に長期の夏休みを利用し、計４回のプログラムを実施した。
①福祉を学ぼう！！～認知症サポーター養成講座＆介
護体験
②もくもくファームで命の大切さを考えてみよう
③地域食堂おかえり🍚で調理・配膳お手伝い♪
→　台風（大雨警報発令）の為中止
④竜田川探検隊～♪
参加者　延べ44名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
核家族化が進む中、高齢者の身体的状態などを知るために、足の重りや耳栓などを利用した高齢者疑似体験を行った。認知症についての理解を深めた後、当会のデイサービスの利用者と交流を行った。
もくもくファームでは、命の大切さ・食の大切さを学び、他学校、他学年の生徒たちが一日行動を共にすることによって仲間づくりができた。
竜田川探検隊では、自分たちにとって身近な竜田川の生物を調査し、環境について学ぶ機会となった。
社会状況の変化により、小中学生の夏休みの過ごし方も変わり、近年ボランティアスクール参加者は減少傾向にあった。そのため、令和２年度からは、児童期に福祉を学ぶ機会をボランティアスクールから福祉出前講座へと移行する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ボランティア講座</td><td>10/28</td><td>ボランティア活動者や、ボランティア活動に興味のある地域住民を対象に、傾聴についての講座を開催した。
講　　師：吹田傾聴「ほほえみ」
長谷川　美津子 氏
参加者数：31名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
近年、核家族化・高齢化に伴い、社会的孤立に陥っている方は少なくない。この様な方々の話をじっくり聴き、安心して日常生活を送れるように支援している傾聴ボランティア活動について学んだ。また、当講座の受講生3名が参加者が奈良県が開催した傾聴ボランティア養成講座を受講し、県内の傾聴ボランティア養成へと繋ぐことができた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">社協だより発行

ホームページ公開</td><td>12回
（毎月発行）</td><td>福祉に関するさまざまな情報や、介護予防・生きがいづくりに役立つ情報を掲載した。
ホームページについても積極的に活用し、幅広い年代に情報が届くよう、工夫した情報発信を行った。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
介護保険や各種事業について、各地域における活動やボランティア活動の紹介なども取り入れて、地域住民にとって分かりやすい紙面づくりを目指した。
ホームページについても、社協だより同様、地域住民に親しんでいただけるよう内容の充実に努めた。（http://heguri-shakyo.or.jp/）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">小地域ネットワークづくり</td><td>年間</td><td>春日丘、緑ヶ丘、北信貴ヶ丘、御陵苑、初香台、上庄台・月見台、椿台、光ヶ丘、平等寺、ローズタウン若葉台、若井、吉新、三里、西宮、菊美台、若葉台の１６カ所で活動されている既存団体について、助成金の案内や活動における相談支援などを行った。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
互いに顔が見える関係が作れるよう、地域住民同士が世代を超えて交流できるサロン活動の運営支援や研修開催時の情報提供などを行った。
小地域ネットワーク連絡協議会については、「輪を広げる」ことを目的とした『ふれあい会』を中央公民館で開催し、ネットワーク未設置の自治会や民生児童委員などへ活動を周知することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">地域食堂（子ども食堂）
運営支援</td><td>4/27・5/25・6/22・
7/27・8/24・9/21・
10/26・11/16・
12/21・1/25

2.3月はコロナウィルス感染防止の為、開催中止</td><td>地域住民が自ら居場所づくりの一環として、子どもを中心に誰もが集える地域食堂（子ども食堂）の取り組みに対して、寄付やボランティアの募集、開催の周知、助成金に関する情報提供など、側面的な支援を行った。
参加者人数：延べ512名（内子ども181名）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
町内初となる地域食堂がオープンし、運営に携わるボランティア活動者に寄り添いながら側面的な支援を行った。運営上の問題や活動からみえる様々な課題の解決のため、活動者と共に協議をかさねた。
また、ディアーズコープたつたがわ、フードバンク奈良と連携し、食材の提供を受けることや、各助成金申請の手続きなどの支援を行った。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">心配ごと相談事業</td><td>年間

講座　2/3</td><td>面談は予約制にて、木曜日の午前中にプリズムへぐり内の相談室にて開催した。専用電話による相談も実施した。

○相談について
相談件数　　70件（精神衛生67件・一般3件）
（面談2件・電話68件）
専用電話：45-8088
相談員：民生児童委員（3名）
○講演会について
内　容：日常生活自立支援事業～くらしの安心を守る～
講　師：奈良県社会福祉協議会　山上伸子 氏
参加者：20人</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
相談内容の多くが、精神衛生に関するものであり、継続的に相談される方もいる。相談者が精神的に不安定であることも少なくなく、傾聴を心掛け信頼関係を築き、必要に応じて関係機関との連携を図った。また、地域に関する相談は、民生児童委員へつなぎ、共に問題解決に向けて支援を行った。
講座は、地域包括支援センターと共催し、奈良県社会福祉協議会　山上氏を講師として招き、当会の事業の一つである「日常生活自立支援事業」について民生児童委員や地域活動者などに幅広く周知することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">療育教室
【　受託事業　】</td><td>月3回
（第1～3火曜日）

12月以降は月5回
（第1・2木曜日を追加）</td><td>健康保険課・子育て支援センターなどと連携を図り、発達に見守りが必要な幼児や育児不安などで悩んでいる母親に対し、親子間での遊びや集団行動を通じて健全な成長に繋がるよう側面的な支援を実施し、当町における子育て支援の一端を担った。
実参加幼児数　　23名
延べ参加幼児数　364名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
個人ボランティア・民生児童委員・更生保護女性会などの協力を得て、様々な遊びや友だちとのふれあいを通して経験を広げ、子どもの社会性が豊かに育つよう取り組んだ。
また、育児不安をもつ母親向けの子育て講演会を開催することで、一人ひとりの子どもが情緒豊かに育つよう発達の援助を行うこともできた。</td></tr>
<tr><td>生活訓練事業
【　</td><td>全5回</td><td>障がい児（者）に対して日常生活上必要な生活動作を身につけていただくため、各プログラムを開催した。
開催日数　5日
実参加者数 8名　延べ参加者数 23名</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>【　受託事業　】</td><td colspan="2">【　事業総括　】
参加する障がい児（者）は目標を持って参加していただき、生活協力員は１対１で参加者をサポートし、その目標に近づけるよう支援した。参加者の家族から「家庭では伝えることができない部分を支援していただいているので今後も続けて行ってほしい」との声があった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">レスピット事業
【　受託事業　】</td><td>夏休み
冬休み
春休み（中止）</td><td>療育手帳の交付を受けた児童および知的（発達）障がいや、それに準ずる学齢期の児童・生徒の長期休み（春・夏・冬）時に集団活動、過ごす場を提供。保護者の一時的な負担の軽減となるよう努めた。
開催日数　8日
実参加者数 13名 延べ参加者数 47名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
社会の中で安定・安心して友達と自分なりに関わっていけるよう、集団行動を通して自分の学校以外の社会と関わっていく意欲を高め自信につなげていけるよう支援に努めた。
充実した余暇を過ごしてもらえるよう多彩なプログラムを用意し、自分の得意なことを伸ばすこと、不得意なことを少しでも克服し自信につなげていけるよう、一人一人の特性に応じた支援を行うことができた。
生活協力員による支援は保護者からの信頼が厚く、今後も支援する生活協力員の資質向上にも努めていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">点字・声の広報発行
【　受託事業　】</td><td>年間
(月1回)</td><td>点字や声の広報CDの配布により、文字による情報入手が困難な障がい者へ情報を提供した。
実利用者数　7名　延べ利用者数　84名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
広報発行作業に協力いただいているボランティアがより効率的に作業ができるよう環境を整えた。利用者数は昨年度と比べて横ばいである。
今後も社協だよりなどの広報を通じて利用促進に努めていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">手話奉仕員養成講座
(入門課程)
【　受託事業　】</td><td>入門課程
(全21回)</td><td>厚生労働省が定めたカリキュラムに基づき、初めて手話を学ぶ方を対象に開催した。自己紹介や簡単な会話ができるまでの手話などについて学んだ。
実受講者数　　3名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
聴覚障がい者の生活および福祉制度などについての理解と認識を深めるとともに、日常会話を過ごすために必要な手話および表現技術を習得した。意思疎通支援を行う奉仕員は、聴覚障がい者の日常生活の維持および社会参加促進を図るために活動を行ってもらう。
また、手話の技術向上の機会とするため、講座修了者に対し手話サークルでの活動を促した。</td></tr>
<tr><td></td><td>入門課程
(全６回)</td><td>初めて点字を学ぶ方を対象に、視覚障がい者の方の読み書きができる文字（点字）や情報提供の方法などについて学んだ。
実受講者数　　3名</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>点訳奉仕員養成講座
【　受託事業　】</td><td colspan="2">【　事業総括　】
目で読みえる情報を正しく点字に変換・提供できるように、点字の内容・構成・表記方法の技術を学び、視覚障がい者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための奉仕員を養成した。
修了者には、引き続きサークルで活動を促し、視覚障がい者の情報利用を支える支援者を増やしていけるよう努めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">聞こえのサポーター養成講座
【　受託事業　】</td><td>入門課程
(全4回)</td><td>初めて要約筆記を学ぶ方を対象に、要約筆記活動を通した支援の方法や聴覚障がい者への理解について学んだ。
実受講者数　　3名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
奈良県中途失聴難聴者協会・OHPへぐりの協力のもと、聴覚障がい者の生活および福祉制度などについての理解と認識を深めるとともに、聞こえない、聞こえにくい方々にどのような支援が望ましいかについて学び、聴覚障がい者（中途失聴者・難聴者）への情報保障の手段である会話の内容を要約し文字で伝える奉仕員を養成した。
修了者には引き続き、技術の習得をめざすサークルを紹介し、聴覚障がい者の意思疎通を支援する奉仕員を増やしていけるよう努めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生活協力員養成講座
【　受託事業　】</td><td>全5日間
(１日実習)
(１日中止)</td><td>初めて障がい者支援について学ぶ方を対象に、障がい者（発達・精神）への理解と支援の方法、障害者福祉の制度とサービス、平群町の福祉施策についてを学んだ。
実受講者数　9名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
障害者福祉の制度および発達障がい（知的）・精神障がいの理解と支援の方法を学び、知的（発達・精神）障がいやそれに準ずる学齢期の児童・生徒および療育手帳保持者の見守りや社会参加への支援を行う生活協力員を養成した。なお、生活協力員の確保にも努め、協力員登録者を５名増員できた。
保護者からの要望も多いことから今後も、知的（発達・精神）障がいの方々に地域で安心して生活ができるよう生活協力員のスキルの向上に努める。</td></tr>
<tr><td></td><td>随時</td><td>要約筆記奉仕員活動時間　延べ72.5時間
奉仕員登録 8名
手話奉仕員活動時間　　延べ189時間
奉仕員登録18名
生活協力員活動時間　　延べ425時間
生活協力員登録40名</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>協力員・奉仕員の派遣
【　受託事業　】</td><td colspan="2">【　事業総括　】
　要約筆記奉仕員の派遣は、行政機関などの申し込みに応じて町内行事への派遣を行った。派遣を担う奉仕員が増えたことで様々なニーズに対応できる体制が整った。
　また、手話奉仕員派遣では聴覚障がい者から医療機関の受診時の通訳についての利用が多くあった。通訳を必要とする聴覚障がい者の高齢化がその背景にあると考えられる。
　生活協力員派遣については、個別派遣（外出支援・一時見守り支援）の派遣回数が減少したことにより活動時間が昨年度より減少した。
　学齢期の児童の長期休み（春・夏・冬）のレスピットの派遣活動は、参加者の成長に合わせて集団行動を通して社会経験を広げ成長を促せるよう努めた。
　今後も利用者の家庭環境や生活環境の変動により多様かつ急なニーズに応えることができるよう関係機関と連携し遂行する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生活支援体制整備事業
【　受託事業　】</td><td>年間</td><td>○生活支援体制整備事業協議体（第1層）の開催
（全６回）
○平群町安心見守り事業の実施　など</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
　平群町の地域資源について把握し、既存の活動内容の充実・発展のために必要とされる支援や、地域住民や関係機関・団体が関わり実施する住民主体の多様な助け合い活動の発展についての支援を行うため継続して協議を行った。

○平群町安心見守り事業
　地域支え合い推進員：51名（23自治会）
　登録者数：119名（一人暮らし高齢者世帯　64名・高齢者のみ世帯　36名
　その他　19名）
○生活支援体制整備事業講演会の開催について（R2.2.22.）
→　新型コロナウイルス感染症防止のため延期</td></tr>
</table>

老人福祉センター　「かしのき荘」

【　全体評価　】
　指定管理制度による町からの委任を受け、公共施設の適正な運営管理に努めた。
　高齢者の健康増進や生きがいづくりの拠点として多くの方の利用がある一方、館内外設備の老朽化が進んでおり、行政と連携しながら順次必要な補修に取り組み、安全管理に努めた。
　地域における身近な施設として親しんでいただけるよう、利用者とのコミュニケーションを図るとともに、脳トレーニングや体操、一人暮らし高齢者の交流などの機会も設け、介護予防や利用者同士の仲間づくりを促すよう心がけた。

事　業　名	実施日時等	内　容
施設の管理・運営	年間	○安全管理、衛生管理 ・設備の保守点検および改修の実施 ・消火・避難訓練の実施 ・利用者の体調不良など、緊急時における対応 ・館内外の清掃業務や浴室を含めた衛生管理 ○利用ニーズの調整 　年間利用者数　延べ40,552名
	【　事業総括　】 　安全かつ快適にご利用いただけるよう施設管理に努めた。 　高齢者の活動が多岐にわたり各部屋の利用ニーズが増えているため、多くの 方に有効に活用いただけるよう、ニーズの調整や配慮に努めた。	
各地区送迎サービス	年間	各地区長寿会単位クラブに対し送迎車の運行を行うことで、活動支援や施設の利用につなげた。 　運行　　333回 　利用者数　　延べ1,796名
	【　事業総括　】 　利用者のニーズに対応し、安全運行を心がけた。	
情報提供サービス	年間	健康や生きがいづくり、介護予防などにつながる様々な情報を収集し、情報提供に努めた。
	【　事業総括　】 　高齢者の生活に役立つ情報が身近な場所で得ることができるよう努めた。	
各種相談	月・木・金	看護師による健康相談の実施 　月・木曜日　長寿会担当 ／ 金曜日　社協担当 　相談件数　　延べ1,050件
	【　事業総括　】 　健康不安や様々な相談に応じ、長寿会健康部と協力して利用者の健康管理に努めた。	
教養講座	2/1	「寒い季節の健康管理」と題し、入浴事故や感染症の予防に関する講座を開催した。 　参加者数　25名
	【　事業総括　】 　健康管理に関する関心が高いことが伺え、有意義な機会となった。	
各種団体事務	年間	長寿会・遺族会の活動支援を行うとともに、行政や関係機関との連携強化に努めた。
	【　事業総括　】 　会の運営が円滑に行えるよう、様々な活動支援に努めた。	

一人暮らしサポート事業	①5/31（31名） ②8/30（33名） ③1/31（35名）	一人暮らしの高齢者を招き、会食や体操・レクリエーションを通じて交流していただくことで社会的孤立の解消を図るとともに、地域における身近な居場所として親しんでいただけるよう館内の案内などを行った。 参加者数　延べ99名
	【　事業総括　】 参加型のレクリエーションを盛り込み、参加者同士の交流やアイディア料理の紹介などで楽しんでいただいた。より多くの方にご参加いただけるよう、広報についても工夫していきたい。	
からだとあたまの体操	毎月 毎週 週1～2回	「からだとあたまの体操」として、脳のトレーニングをはじめとした教室をもち、介護予防や利用者同士の交流を促進した。 参加者数　延253人
	【　事業総括　】 利用者の関心も高く、継続的な取り組みで利用者の意欲の向上や介護予防につながっている。	

居 宅 介 護 支 援 事 業 係

【　全体評価　】

要支援・要介護などと認定された方の心身の状態や環境などについてアセスメントを行い、本人や家族と相談しながら自宅でできる限り自立した生活を維持できるようにケアプランを作成し、支援することができた。新規利用者の受け入れに対しては、可能な限り積極的に受け入れを行った。

また、知能や技術の向上を図るため、積極的に研修などに参加した。

事　業　名	実施日時等	内　　容

<table>
<tr><td rowspan="2">居宅介護支援事業</td><td>年間
（月～金）</td><td>利用件数　1,111件（月平均　93件）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
利用者とその家族が、どのような在宅生活やサービスを希望されているかを把握するため、定期的に訪問を行い、相談しながらより自立に向けた在宅生活を送ることができるようケアプランを作成した。
その人らしい在宅生活を送っていただくため、各関係機関への連絡調整などを行い、スムーズなサービスの利用や適時にサービス内容の見直しなどを行った。しかし、困難ケースや終末期を迎えた利用者を多く受け持つことにより、サービスの調整に時間を費やすことが増え、また、入退院時の多職種連携の強化を行うことによっても時間を費やすことが増えた。
担当している利用者の介護認定期間を把握し、場合によっては更新申請の代行を行ったり、在宅生活が困難になった利用者に対しては施設入所の相談に乗り、施設との連絡調整などを行いスムーズに入所できるよう支援した。
また、行政から依頼のあった住民に対し、要介護認定の認定調査を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">介護予防サービス
【　受託事業　】</td><td>年間
（月～金）</td><td>利用件数　51件（月平均　4件）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
要支援認定を受けた方の心身の状態や環境、本人や家族の希望などを把握し、介護予防サービス支援計画を作成した。そのプランに基づいて各関係機関とサービス利用に関する連絡・調整を行い、居宅において日常生活が低下することなく、心身ともに自立した生活を送っていただけるよう支援した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">介護予防・日常生活支援総合事業
（介護予防ケアマネジメント）
【　受託事業　】</td><td>年間
（月～金）</td><td>利用件数　131件（月平均　11件）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
要支援認定を受けた方の心身の状態や環境、本人や家族の希望などを把握し、介護予防サービス支援計画を作成した。そのプランに基づいて各関係機関とサービス利用に関する連絡・調整を行い、居宅において日常生活が低下することなく、心身ともに自立した生活を送っていただけるよう支援した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ふれあい食事会
(一人暮らし高齢者)
【　受託事業　】</td><td>10/23
11/7</td><td>参加者
プリズムへぐり　22名
外出　20名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
ボランティアなどの協力のもと、一人暮らしの高齢者を招き交流する機会を持つことにより、孤独感の解消や生きがいを感じてもらうことができた。
参加者には、外出形式と室内（プリズムへぐり）のいずれかを選択していただけるように工夫している。</td></tr>
</table>

訪 問 介 護 事 業 係

【　全体評価　】

サービス提供責任者として、居宅サービス計画書に沿った訪問介護計画の作成、サービス内容の確認や見直し、調整を行った。利用者のケアに関して協議するために開催されるサービス担当者会議にも積極的に参加し、現状についての報告や情報交換などを行った。その結果、利用者が住み慣れた地域でできる限りその人らしく安心して生活できるように支援することができた。また、利用者の自立生活支援のため、利用者と一緒に行う・見守るという見守り的援助も行った。

登録ヘルパーの研修会では、講義と事例を通してのグループワーク、実技講習（おむつ交換をメインに応用まで）を行い、ヘルパーとしての知識や意識の向上につながる有意義な研修となった。

新規利用者については、介護保険・障害福祉事業共に依頼があれば積極的に受けることができた。

事　業　名	実施日時等	内　容
訪問介護事業	年間	実利用者数　70名　延べ利用者数　533名 身体介護　2,719回　3,456時間 身体生活　2,766回　4,003時間 生活援助　1,456回　1,989時間
	【　事業総括　】 介護保険で「要介護」の認定を受けた方の家庭へ訪問して、在宅で生活できるように、食事・入浴・排泄などの身体介護や、調理・掃除・洗濯・買い物などの生活援助を提供することができた。	
介護予防・日常生活支援総合事業 (訪問型サービス)	年間	実利用者数　48名　延べ利用者数　406名 事業対象者　77回　61時間 要支援１　842回　757時間 要支援２　1,106回　986時間
	【　事業総括　】 介護保険で要支援1・2、事業対象者と認定を受けた方の家庭へ訪問して、要介護状態への進行の防止と、できる限り自ら家事などを行うことができるように日常生活の自立に向けて支援を提供することができた。	
障害福祉サービス（居宅、重度訪問介護)	年間	実利用者数　7名　延べ利用者数　75名 1,294回　1,881時間
	【　事業総括　】 身体・知的・児童・精神障がい者、または日常生活に支障がある方が、地域で自分らしく自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、身体介護や家事援助などの日常生活支援を提供することができた。	
日中一時支援事業	年間	実利用者数 1名　45回　45時間
	【　事業総括　】 日中において、一時的に見守りなどの支援が必要と市町村が認めた障がい者などに活動の場を確保し、障がい者などの家族の就労支援および障がい者などを日常的に介護している家族に対して一時的に休息を与えることができた。	

通 所 介 護 事 業 係

【　全体評価　】
　利用者の意思及び人格を尊重し、心身の特性を踏まえ、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように、利用者家族やその他の関係機関との連携を密にしながら、必要な日常生活上の介護および機能訓練の援助を行い、利用者の生活機能の向上につなげることができた。また、利用者へのサービス提供の機会を増やすことおよび利用者家族の身体的・精神的負担の軽減を図れるように、定員の拡大や祝祭日開催などを行った結果、事業全体の延べ利用者数が前年度に比べ1,000人以上増加し、多くの方にサービスを提供することができた。

事　業　名	実施日時等	内　　容
通所介護事業	年間	実利用者数　51名、延べ利用者数　5,852名
	【　事業総括　】 　要介護者に対して個々の状況に応じた支援ができるように努め、身体介護・機能訓練を通じ、コミュニケーションを多く図れるように努め、心身機能の維持向上ができるよう支援した。また、家族の介護負担の軽減もできるよう努めた。	
介護予防・日常生活支援総合事業 （通所型サービス）	年間	実利用者数　7名、延べ利用者数　375名
	【　事業総括　】 　事業対象者・要支援者に対して、個々の状況に応じた支援ができるように努めた。身体介護・機能訓練を通じ、コミュニケーションを多く図れるように努め、心身機能の維持向上ができるよう支援した。また、元気で生き生きと過ごして頂けるよう心がけ、要介護状態にならないように努めた。	
基準該当生活介護サービス事業	年間	実利用者数　2名、延べ利用者数　74名
	【　事業総括　】 　定期的な通所で、自立した生活ができるように、個々人の障がいにあったレクリエーション、趣味活動や機能訓練などを通じて、楽しみながら心身機能の維持・向上を図って頂くことができた。1名の利用者の方が、令和1年10月末で利用中止となり、令和2年3月末時点で、実利用者は1名となっている。	

地域包括支援センター

【　全体評価　】

高齢化が進み、認知症高齢者やひとり暮らし高齢者などが増加するなか、高齢者などができる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう、地域包括ケアシステムの構築が求められており、専門職が互いの特性を活かし下記の事業などを推進し、各種相談やサービスの調整などを行い更なる支援体制の充実を図った。

今後も、介護保険制度などの公的なサービスだけでなく、民間サービスや住民の支え合い活動などの社会資源を活用するとともに、関係機関と連携・協議を行い、地域住民を包括的・継続的に支援を行っていく。

事　業　名	実施日時等	内　　容
総合相談支援業務	年間	○相談件数（延べ） 電話　1,307件 訪問　670件 来所　446件 その他　84件 合計　2,513件
	【　事業総括　】 介護相談や認知症相談など高齢者などに関する相談を受け、情報提供や適切な機関や制度・サービスにつなげ、その後も継続的にフォローすることができた。	
権利擁護業務	年間	○相談件数（延べ） 権利擁護　9件 虐待　10件 ○日常生活自立支援事業について　2/3 講師：奈良県社会福祉協議会 山上　伸子　氏　参加者20名
	【　事業総括　】 親族からの相談に対し、行政機関と連携のもと介護支援専門員や家族からの聞き取りをしたが　すぐに分離ができた。 今後も、在宅生活者・施設入所者を問わず、高齢者などの権利侵害事例について関係機関との連携のもと迅速に対応を行う。	

<table>
<tr><td rowspan="2">包括的・継続的
ケアマネジメント
支援業務</td><td>年間</td><td>○生駒郡内介護支援専門員合同研修会
第１回（7/23）「介護予防プランの作り方講座～知りたいコツ教えます～」　参加総数61名（平群12名）
第２回（9/30）「アセスメント～口腔に関する情報とは～一緒に考えてみませんか」　参加総数53名（平群10名）
第３回（11/12）「もっと薬剤師と関わろう！～それってもしや薬が原因？」　参加総数45名（平群10名）
第４回（1/27）「自立支援を目指した目標設定」　参加総数57名（平群12名）
○町内介護支援専門員勉強会
第１回（6/18）「障害者総合支援法と精神障害の特徴と支援のポイント」　参加者数16名
第２回（2/12）「平群町の障害・介護保険外サービスについて」
「西和7町入退院ルールづくり事業の全体会議（10/31）について内容説明・意見交換」
参加者数　16名</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
勉強会を行うことで、ケアマネジメントをするうえで必要な知識を深めてもらうことができた。今後も介護支援専門員が適切なケアマネジメントが行えるように支援する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定介護予防支援事業</td><td>年間</td><td>○介護予防支援数
延べ利用者数　1,332名（内、包括支援センター　431名）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
要支援1・2の認定された方に対しアセスメントをもとにケアプランを作成し、出来る限り自立した生活を営めるように支援を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">介護予防
ケアマネジメント業務
（第１号介護予防支援事業）</td><td>年間</td><td>○介護予防ケアマネジメント数
延べ利用者数　1,652名（内、包括支援センター 465名）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【　事業総括　】
要支援者や事業対象者の自立支援を考えながら利用者の目標やその達成のための具体策を共有し実施した。
今後も高齢者が要介護状態になることをできる限り防ぐように支援していく。</td></tr>
</table>

一般介護予防事業	年間	○はつらつサロンの開催（5/30、7/26、9/26、11/29、1/29、3/22） 延べ参加者数：77名 ○元気アップ教室の開催 ・前期（全１１回）　延べ参加者数：225名 ・後期（全　9回）２回中止　延べ参加者数：182名 ○介護予防あれこれ講座 9/27　口腔編　参加者数13名 9/30　栄養編　参加者数16名 10/1 運動編　参加者数23名 ○介護予防ウォーキング講座の開催 5/24　参加者数10名 10/28　参加者数10名 ○介護予防ラジオ体操講座の開催 6/21　参加者数17名 11/19　参加者数11名 ○ラジオ体操登録（２団体） ・実施地区（Ｈ３０年度から継続） 緑寿会ラジオ体操クラブ、長寿会健康体操クラブ ○へぐりいきいき百歳体操（１４団体） ・実施地区（Ｈ２８年度から継続） 御陵苑、上庄・月見台、竜田川ネオポリス、春日丘、 緑ヶ丘、菊美台 ・実施地区（Ｈ２９年度から継続） 長寿会健康体操クラブ、初香台長寿会、西宮自治会、 椿台百歳体操 ・実施地区新規立ち上げ地区（Ｈ３０年度） 若葉台いきいき百歳体操、吉新長寿会、若井百歳体操 ・新規立ち上げ地区（Ｒ元年度） 三里長寿会：H31.4月開始 ・へぐりいきいき百歳体操体験・交流会　2/13 参加者数：124名 ・へぐりいきいき百歳体操応援講座　3/10中止 ・出前説明体験会の開催3回（参加者数：67名） ○地域リハビリテーション専門職等派遣事業　7団体利用 ○ＩＣＴ健康づくり意識向上プロジェクト事業（３団体） ・実施地区（Ｒ1.7月末開始） 緑ヶ丘、上庄・月見台、長寿会健康体操クラブ ○介護予防などの出前講座の開催　延べ参加者数：26名

	【　事業総括　】 介護予防の取り組みとして、ウォーキング講座、ラジオ体操講座を開催した。住民運営の通いの場の支援などを行い、生きがいを持って生活を行う地域づくりを推進した。 また、高齢者が要介護状態になることをできる限り防ぐことができるように高齢者が気軽に集える居場所となるようにサロンを開催した。	
認知症総合支援事業	年間	○認知症相談会 ７回開催　延べ相談者数15名 ○認知症サポーター養成講座 8回開催　延べ参加者数：188名 ○キャラバンメイト交流会 1/25　参加者9名 ○認知症予防わくわく教室 ・前期（全１１回）　延べ参加者数：187名 ・後期（全１０回）１回中止　延べ参加者数：152名 ○認知症カフェ～心晴（こはる）～ １１回開催　延べ参加者数：289名 延べボランィテア数：76名 ○認知症介護家族交流会 ・5/21　参加者5名　助言者１名 ・2/18　参加者8名　助言者1名 ○認知症講演会　6/24 講師：まほろば倶楽部　代表　平井 正明 氏 演題：「若年性アルツハイマーと向き合って」 参加者：43名
	【　事業総括　】 認知症の人を含む高齢者に優しい地域づくりを目指し、認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進、認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護などの提供、認知症の人の介護者への支援および認知症予防や早期診断・早期対応にむけての取り組みを実施することができた。	
在宅医療・	年間	○生駒地区医師会と生駒郡４町が協働で開催 ・地域ケア会議　3回 ・多職種勉強会　2回 ・在宅医療講演会　参加者　57名 ○西和メディケアフォーラム　2回

介護連携推進事業	【　事業総括　】 奈良県、西和7町や生駒地区医師会など関係団体等と連携し、会議を開催し、また多職種間の相互の理解や情報を共有できるように研修会を開催した。 今後も在宅医療と介護の連携に関する課題の抽出や対応策について検討していく。	
	年間	○処遇困難事例地域ケア会議の実施（１回　1事例） ○自立支援型地域ケア会議の実施（10回　46事例）
多職種協働による 地域包括支援 ネットワークの構築 【地域ケア会議推進事業】	【　事業総括　】 多職種が協働し処遇困難事例について支援内容などを検討し課題を解決するために、保健所と連携し家族や介護支援専門員の支援を行うことができた。また、自立支援・介護予防に資するケアプランの作成を通じた高齢者のＱＯＬの維持向上を目的として開催される自立支援型地域ケア会議に、今年度より助言者として町内介護施設所属の理学療法士に参加してもらい開催した。 新規の要支援者および総合事業対象者に対して改善可能性の見極めと自立支援に向けたケアマネジメント支援を行うことができた。 次年度は、より充実した有意義な地域ケア会議を実施するため、助言者として町内調剤薬局の薬剤師にも参加を依頼し開催する。	

ふれあい交流センター

【　全体評価　】
　高齢者の福祉向上および健康増進の拠点となるように、「地域包括支援センター業務」と連携を図り、各取り組みを行った。老人福祉センター「かしのき荘」の利用者に対しても、各種事業への参加を呼びかけ、当施設の取り組みなどに対して理解を頂くようになっている。
　今後も、当会が行っている事業や関係団体などと連携を行い、健康の保持・増進を目的とした事業を開催し、地域住民の交流の場・居場所となるように努める。

事　業　名	実施日時等	内　　容
施設の管理及び運営	年間	○施設の安全管理 　各種整備保守点検 　館内外の清掃・除草作業など
	【　事業総括　】 　安全に施設を利用できるように、「施設の安全管理」「各種設備保守点検」「館内外の清掃、除草作業」などを行った。	
高齢者の交流などにかかる業務	年間	○はつらつサロンの開催（年５回） ○自主的な住民交流の場への支援　など 【内容・参加者は、「地域包括支援センター」を参照】
	【　事業総括　】 　「生きがい対策」「健康の保持増進」「介護予防」「高齢者の交流」に係る業務を、地域包括支援センター業務と連携のもと実施した。	